

## 令和6年度第2回恵那市総合教育会議会議録

日 時 令和7年2月4日（火） 午前9時30分～

場 所 恵那市役所 西庁舎 4A会議室

会議次第 1. 市長あいさつ

2. 議題

①エーナアスリート応援事業について

②恵那市中学校の部活動地域移行について

③佐藤一斎學びのひろばについて

3. その他

・国民スポーツ大会冬季大会（スピードスケート）の開催について

出席構成員：恵那市長

小坂 喬峰

教育長

岡田 庄二

教育委員

樋田 千史

小栗 秀子

西尾 修欣

村松 訓子

まちづくり企画部長

伊藤 豊

企画課長

和田 信之

事務局：

副教育長

工藤 博也

教育委員会事務局長

鈴木 幸宣

教育委員会事務局次長兼

学校教育課長

丸山 頼彦

教育総務課長

瀬瀬 千尋

スポーツ課長

後藤 治己

社会教育課長

柄澤 史枝

教育総務課担当係長

志津 博光

開 会（午前9時30分）

教育総務課長

皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回総合教育会議を開催いたします。

本日は教育総務課長の瀬瀬が司会を務めますので、よろしくお願いいたします。この総合教育会議につきましては、市長と教育委員会が教育に関する施策等に対し、協議や意見交換を進めながらその方向性を共有する会議となり、年2回

ほど開催させていただいております。第1回は8月26日に開催しまして、恵那南地区の中学校統合を機に新たな学びの場としての地域教育拠点施設について協議、意見交換をしていただき、当日の意見等を踏まえながら前へ進めていくことといたしました。

本日の総合教育会議は、恵那市総合教育会議設置要綱第5条に基づき、会議を公開し、第6条に基づき議事録を作成し公表いたしますので、よろしく願いいたします。これより次第に沿って進めさせていただきます。着座にて失礼します。

## 1. 市長あいさつ

教育総務課長

初めに、小坂市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長 改めまして、おはようございます。本日は大寒波が来るということで外を見ますと大変な雪が降っている中でのございます、天候が厳しい中にもかかわらず、ご参加いただきまして本当にありがとうございます。

今日は第2回目の総合教育会議ということでございます。どうぞ皆さん、活発なご意見を賜りますようお願いいたします。

今日は議題を3つ用意しております、1つはアスリートの応援についてということですが、実はこのところスポーツに関してはさまざまな取組がございまして、特に昨年はパリオリンピック・パラリンピックが行われまして、そのパラリンピックに出場されたのが武並町の工藤選手ということで、国際大会に出られました。それから、この1月にはスピードスケートのワールドカップということで、カナダのカルガリーに遠藤二千翔選手が出られたということで、この恵那市からも国際大会にまで出られる方が出てきたということで、大変、喜ばしいことだと思っております。ただ、その環境というか選手の皆さんの負担は結構大きいものですから、市としても何か応援できるプログラムがあっても良いのではないかなという議論がありまして、今回、エーナアスリート応援事業というものを新たに立ち上げようかということで、今ご提案をするものでございます。これにつきましては、議会の議決もございますので、今は原案の段階でございますけれども、一度皆様からのご意見をいただきながら、考えてまいりたいと思っております。

それから、中学校の部活動の地域移行に関しましては、これは私よりも皆さんの方がよくご存じだと思いますけれども、子供が減っていく中で、子供たちの活動がなかなか厳しいということで、これをどういうふうに進めていくのか。市としては、これをまずは検討し、スタートするにあたって、その手順も含めて皆様からご提案やご意見をいただきまして、進めていきたいと思っております。その詳しい手続きについてご案内を申し上げたいと思います。

3つ目が「佐藤一斎学びのひろば」についてでございますが、これは既に工事

をスタートしておりますけども、旧岩村振興事務所の跡地を活用して、佐藤一斎を含めた先人への学びを一つの契機とした拠点をつくっていくということでございまして、その概要についてお知らせを申し上げたいと思っております。大変短い時間ではございますけれども、ぜひ活発なご意見を賜りますようお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育総務課長

ありがとうございました。

## 2. 議題

### ① エーナアスリート応援事業について

教育総務課長

それでは、議題の方に入りたいと思います。本日の議題は3議題ありますので、事務局からの説明を含め、1議題、おおむね15分から20分程度で終了し、全体の終了時間を10時半までにしたいと思っておりますので、ご協力の方よろしくお願いいたします。

それでは1つ目の議題であるエーナアスリート応援事業について、スポーツ課長から概要説明をいたします。

スポーツ課長

エーナアスリート支援事業について説明。

教育総務課長

説明が終わりましたので、教育委員の皆様からご質問、ご意見等のご発言をいただきたいと思っております。挙手にてお願いいたします。

西尾委員 今スケート選手で恵那市所属という肩書きのある方が3人か4人ぐらいいましたが、その恵那市所属の選手との違いというのですか。確かに国際大会に出場するのは、その選手たちだけではないですからいいのでしょうか。恵那市所属のスケート選手に対する費用というのは、ある程度何かの形で出ているとは思いますが、そちらとのバランスというか違いは何かあるのですか。

スポーツ課長

現在、恵那市体育連盟に所属している選手につきましては、遠藤二千翔選手1人だけです。以前、ぎふクリスタル国体があったときは強化選手ということで、そのほかに2人、3人みえましたが、現在のところは遠藤選手のみとなっております。遠藤選手につきましては、岐阜県の方からの資金を基に恵那市体育連盟から手当を出している状況になっております。

こちらのエーナアスリート支援事業につきましては、国際大会を目指す選手ということで、もちろん遠藤選手もそうですけど、そういった方々に激励金という形で国際大会であるとか、そういう大会に出るときに支援をしたり応援をしたりしていくといった形を考えております。

西尾委員 ありがとうございます。

教育総務課長

そのほか、激励金のほかに、地域を挙げてこんな支援があるといいよというものもあれば、併せてお願いしたいと思います。

村松委員 提案ですけれども、いいですか。

教育総務課長

どうぞ、村松委員。

村松委員 中学校の授業で、地域の何かやってみえる事業所の方や自分たちからしてそれほど年が変わらない若い方たちを呼んで講話を聞くという授業があると思います。中学生が自分の将来を考えたときにという授業がどの中学校でもあると思うので、こういった選手の方々に、よく交流授業や生徒会活動の交流で使っている大型モニターを使って、講話などを中学生に聞いてもらって、その講話の後に感想や応援のメッセージ、寄せ書きなどを選手の方に贈呈して、選手を身近に感じられればもっと応援しようという気持ちになると思います。こういったいろいろな選手の方から、ここまで来るのにこんなにも大変なことがあったなどいろいろなことが聞ければ、それもすごく自分の未来の参考になると思います。なので、せっかくそのような大型モニターがあるので、そういうことで活用したらどうかと思いました。

スポーツ課長

ありがとうございます。こちらの方では、まず支援のことだけを記載しておりますけれども、実際のアスリートの方々にそういう講話をしていただいたりとか、例えば、演技指導であったり研修会であったりなど、そういったこともアスリートの方々にお願いをしながら、小中学生や地域の方々と一緒になってできるような取組も進めていきたいというふうには考えております。

村松委員 ありがとうございます。

小栗委員 今話された遠藤二千翔選手のお兄さんが、以前、小学校6年生に対してお話に来ていただきました。子供たちに実際に履いているスケートの靴を見せていただいたり、今こういうところで練習をしているという話を聞いたりして、すごく興味を持っていたので、そのような話でもいいと思います。スピードスケートは、小学校のスケート教室などで行ったときに、実際に見せていただくこともあるのですが、テコンドーはなじみがないので、例えば、小学校で教室を開いていただくとか、恵那市全体に働きかけて体験教室のようなものがあると、実際に体験した子は家に帰って話して、それが家族の話になって広がると思いますし、まず競技に興味を持っていただくということで体験教室があるといいと思いました。

スポーツ課長

ありがとうございます。確かにテコンドーにつきましては、恵那市にテコンドー協会もございませんし、少しなじみがないというところもあります。実際、

東京パラリンピックのときは工藤選手がみえて、そういう教室を開催しておりましたけれども、パリパラリンピックが終わった後は、すぐに海外の強化練習や試合に行かれておまして、なかなか調整ができなかったものですから、先方と調整をいたしまして、そのような機会も作っていきたいというふうには考えております。

樋田委員 どういう人が国際大会に出ているとか、どういう種目に出ているかということをして一般市民が知ることが大事だと思います。オリンピック、パラリンピックではないですけど、水泳で古山さんという女性の方が優勝したことは、広報えなに載っていました。広報えなで知ることでもできるし、それからやっぱりこんな人があるということを目で見えるような、そのような激励みたいなものがあるといいかもしれないですね。例えば、のぼり旗をつけるとかね。甲子園大会出場というものは、市役所のところに垂れ下がっているのをよく見ますけれども、そういうのも一つの手ですし、どんな人がどんな種目に出場しているということを広く知らせていくことで、市民が頑張っているな、私も頑張らないといけないとか、恵那市を盛り上げていく基になると思います。なので、広報えなでもいいですし、ホームページでもいいですけど、見る人は見ますし、見ない人は見ないですね。だから広く伝えていく方法を考えていく。例えば、極端ですけどもヘリコプターで音声を流すとか、あまりやったことがないようなこともやってみると伝わるかなと。やっぱり市民に知ってもらうことは、大事だと思います。いい方法がすぐに思い付かないですけども、何かそのようなものがあるといいかなと思います。

スポーツ課長

ありがとうございます。

樋田委員 激励金の金額はもう決まっているのですか。

スポーツ課長

まだ原案ですので、決まっていません。

樋田委員 海外に行くときには、選手は自費で行きます。大きな大会の連盟に入るところでは、ある程度補助金は出ますが、ほとんどが自費なのですね。その辺のことも踏まえて、例えば10万と書いてありましたけれども、恐らく足りないと思います。その辺の金額も少し考慮するといいいかなと思いました。

スポーツ課長

ありがとうございます。PRや広報につきましては、工藤選手、遠藤選手とも、広報えなへの掲載や横断幕の設置をしておりますけれども、やはりまだまだ市民全体に行き渡るような広報ではないとは感じておりますので、今後よりよいPR方法を検討しながら、広く市民に伝わるようなPRを進めていきたいと考えております。

教育総務課長

一通りご意見いただきましたが、そのほかはよろしかったでしょうか。

ありがとうございます。いただいた意見につきましては、それをできる限り反映させていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

## ②恵那市中学校の部活動地域移行について

教育総務課長

それでは、次の議題に入りたいと思います。

恵那市中学校の部活動地域移行について、スポーツ課長の方から説明をお願いいたします。

スポーツ課長

恵那市中学校の部活動地域移行について説明。

教育総務課長

一通りの説明が終わりましたが、少し補足したいと思っております。

今後、恵那市地域クラブというものが必要になってくるということで、これに向けて進めていきたいのですが、まずは段階として、教育委員会としては学校側や一部の保護者クラブの指導者から意見を聞く中で、「総合的にマネジメントする組織が必要だよ」と。ただ、いきなりこれを立ち上げるのは無理ですので、その手順として、まず今年の3月ぐらいまでに、この準備委員会というものを持ち上げた方がいいのではないかとこの準備委員会を立ち上げる中で、今度は関係者や関係団体の意見集約を行ってまいります。意見集約を行う中で課題の整理や解決策の検討、ガイドラインの作成、事務局体制どうするかといったいろいろなご意見がきくとあると思います。そういったものをこの準備委員会の中で整理して、令和8年4月1日に向けた、この恵那市地域クラブの設立をなるべく早期に行っていきたいというものでございます。この手順というのも大事になってきますので、教育委員会が勝手に進めるものではなくて、これに対して教育委員さんからは、まずこういう手順で進めていかどうかというご意見、そしてこういう視点も入れるべきではないかというようなご意見を伺いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

樋田委員 私もクラブ指導に携わっておりますけれども、今度、恵南地区が統合になったときに、一つ問題になるのは、例えば、串原、岩村、上矢作、明智というそれぞれの学校の下にクラブがあります。それに各地区には、その保護者も含めて代表者がいて指導者もいます。今度、恵那南中学校になったときに、そのクラブは一体どうなってくるかということですね。私が言っているのは卓球のことですけれども、それぞれ各地域にクラブがあるわけで、恵那西中学校、恵那東中学校、恵那北中学校にクラブがあります。そこに指導者が入って行って活動しているわけです。特に統合になったときの恵南地区については、そういう各地域のクラブは一体どうなっていくかということですね。先ほど提案された中で、関連した人たちの話を集めていくと。それでいい方向へもっていくということなのだと思いますけれども、これは難しいかなと思うのです。消滅してしまうかも

しれない。串原の卓球クラブはなくなってしまうかもしれない。そうなる  
ると、どうなるのかなと思うのですね。私は卓球協会ですけれども、卓  
球協会は恵那市のジュニアクラブを立ち上げております。これは先ほどの体育  
連盟の方のスケートの一部で書いてありましたが、恵那市でジュニアクラブを  
平成7年に立ち上げました。もうかれこれ20何年やっているのですけれども、  
現在は串原小中学校の児童生徒、それから恵那西中学校、恵那東中学校、恵那  
北中学校の生徒を広く集めてやっています。そういうクラブもありますし、各  
学校の下にあるクラブもあります。だから、その辺の兼ね合いはこれから一体  
どうなっていくかなと。卓球クラブ以外にもいろいろなクラブがあると思いま  
す。サッカーや野球もあります。それからダンスクラブもあります。キッズダ  
ンスみたいな恵那市全体を集めた、そういうクラブもあります。そんなに慌て  
なくてもいいのですけれども、時間はないので、準備委員会を立ち上げていく  
ことも大事ですし、そういった人たちから幅広く情報を集めてどういう方向で  
もっていったらいいのか、そういうことを十分話し合っていくことが大事では  
ないかなと思います。

#### スポーツ課長

ありがとうございます。統合に向けて、現在の各中学校でそれぞれのクラブ活  
動をしているところもございますので、そちらの方のご意見を伺いながら、例  
えば、恵那南中学校として一つのクラブにするのか、それぞれで行っていくの  
か。その辺についてはいろいろと検討していきたいと考えておりますけれども、  
それぞれのクラブの意見を大切にしながらやっていきたいと考えています。

西尾委員 恵那市内に地域移行されたものも含めて、今幾つのそういったスポーツクラブ  
があるか存じ上げませんが、恐らく結構な数があると思われます。それでクラ  
ブ活動の主役というのはあくまでも子供たちが主役であって、その子供たちの  
サポートをするための保護者がいろいろなクラブの運営をしてみえるのが現状  
だと思います。その保護者の皆さんをサポートするための「恵那市地域クラブ」  
というような解釈で今話を伺っておりましたが、ぜひこれは必要なことだろ  
うなと思います。というのは、幾つもあるスポーツクラブでいろいろな差がある  
と思われます。例えば、指導者に対する謝礼一つにしても、多いところもあれ  
ば少ないところもあるだろう。そういったことをやはり恵那市内のスポーツク  
ラブをある程度統一したものに調整をしていくための、「恵那市地域クラブ」  
というものならば、やはり必要なものであろうし、また突然これができる立ち  
上がったというのも、もちろん立ち上げるまでにいろいろな準備がいるわけ  
ですから、当然準備委員会を立ち上げるのも至極当然なことであると思いま  
す。ですから、この準備委員会を立ち上げ、その中でいろいろな調整をした上で、  
令和8年4月から正式に「恵那市地域クラブ」が発足するよと。そこは保護者  
の皆さんのいろいろな調整をするのだということを、せいぜいアピールしてもら  
いながら準備をしていただきたいなというふうに思います。ただ、先

ほど樋田先生も心配しておられましたけれども、恵那南地区の中学校統合に関しては、クラブ活動がいろいろたくさん選べるようになるよというようなことを当初PRしていた。たまたまタイミングが悪いと言えばタイミングが悪いのですけれども、子供たちが選べるように地域クラブをサポートできるような、あるいは、この「恵那市地域クラブ」が中心になって、こんなクラブ活動はどうですかということで立ち上げることもできるのではないのかな。サポートだけではなくて、そういった運営も担ってもらえるような組織になってもらえるといいかなという、そんな気がします。

スポーツ課長

ありがとうございます。サポートにつきましては、現在ほぼボランティアでやっていたような状況の方が多いものですから、先ほど西尾委員が言われたように指導者に対する謝礼であるとか、あと皆さんが入る保険ですね。こちらの方は子供たちだけでなく、指導者や代表者の方などそういった方々の保険など、そういったところの支援は必要であるかと感じております。そのほかにも指導者がいないというような状況もあるかと思っておりますので、指導者の紹介なども検討していきたいと考えております。また、新たなクラブの立ち上げに関しても、こういうクラブをやってほしいなど、子供たちの声を聞きながらある程度ニーズがまとまれば、そういうクラブにつなげるとか、そういったことも検討していきたいと考えております。

小栗委員 今、中学生の子供がいないので部活のことが分からない状態ではあるのですが、子供がクラブに入っていたときは、体育館の使用料などが高校生以下は免除されていたので、その面はとても助かっていました。一時期、クラブが施設費用をもってくださいとなったときに、少しくラブ自体がパニックになってしまったので、練習を続けるためにも施設の費用を恵那市がもっていただけるのは続けていただきたいなと思います。あと、ほかのお母さんたちに聞いても、地域移行と聞くと部活はどうなってしまうのだろうと。部活があるような、ないような、学校の方での説明もあやふやな感じです。いろいろ調べたときに兵庫県の赤穂市は、令和6年に入学の現中学1年生は令和8年度の引退するまで学校部活ができますとか、令和7年に入学の現小学6年生はいつまでできますとか、ここから地域移行になって部活はなしになりますとか、入った学年と年代によってどういうふうになるかということが分かるように表になっていました。こういうふうにしていただくと自分たちも、自分がこのところだから、こういうふうになっていくのだということが目で見えるので、「恵那市地域クラブ」が発足した後はそういう形で子供たちに示してほしいなと思います。

スポーツ課長

ありがとうございます。体育館の使用料につきましては、今、小栗委員が言われたように、18歳以下の団体につきましては免除という形になっております。こちらの方もこれからの検討にはなりますけれども、引き続きそういった形で

支援をしていきたいと考えております。あと、部活動は今後どういうふうになっていくかということですが、こちらの方も見やすい形で示していくようにしていきたいと思っております。ただ、現在、こちらの方が休日と平日の夜間の部活動ということですので、今のところ保護者クラブの方はクラブ活動として実施しております。実質、学校の中での部活動というのは本当に少ない時間で今やっているような状況ですので、そういったところをどういうふうにしていくかということも今後検討していきたいと考えております。

村松委員 部活動の地域移行については、いろいろなメリット、デメリットがあると思っておりますけど、串原の子供たちは、卓球しか部活動ができていなかったの、生徒の側からしたら、すごく選択肢が増えるということだと思います。ただ、指導者の確保など、いろいろ大変なことも出てくると思いますので、この地域クラブというのは教育委員会のスポーツ課に置くのか、それとも学校教育課とかで先生のOBの方を職員にして置くのかとか、この組織がしっかりしていないと保険のこととかもあるので、何か問い合わせたときにたらい回しにされてしまったりすることがないように、この地域クラブという組織自体がしっかりしていないと回っていかないとと思うので、その準備委員会でしっかり決めていただきたいです。どこに事務局を置いて、どのようにして、どんな方を使って、どんな方に来ていただいとというのは、どのように考えてみえるのかということと、学校絡みのことなので、やはり教員のOBの方がみえた方が学校と連携してやっていく大きな事業なので、そこの辺はどうやって考えてみえるのでしょうか。

事務局長 今言われたように、事務局をどこに位置付けするかというところになってくるのですが、やはりスポーツだけではないというところはあるので、学校教育サイドの方に事務局を置きながら、そこにスポーツや文化を絡めていくのが今考える時点では、一番適正かなと考えています。村松委員が言われたように、やはりそこに学校サイドの現場を知っている教員OBの方が入っていただくと、より連携が深く進んでいくのではないかと。文部科学省も、地域移行することによって、決して学校は関わらなくていいとは言っていないで、クラブと連携・協働しながら進めていきたいと思いますという方向性を出していますので、そういったことを考えると、そうした位置付けがベターかなとは思っています。いずれにしても、それも今後の準備委員会の中で、ご意見を聞きながら立ち上げていきたいと考えています。

西尾委員 一つ確認です。地域クラブと言うと、どうしてもスポーツ系をイメージしてしまうのですが、この「恵那市地域クラブ」が発足する段階では、いわゆる文化系のクラブ、例えば、お茶やお花、太鼓とか、そのようなものも含めてのクラブですよね。

事務局長 そうですね。この「恵那市地域クラブ」というところに、それぞれの活動団体が傘下に入って活動するということになりますので、ここはスポーツだけでは

なく、吹奏楽などそれぞれのクラブができて、そこに要件が満たされれば、そこに入って同じように対象になっていくということでございます。

西尾委員 はい。結構です。

小栗委員 そういう団体がみえるということがはっきりしたときには、子供たちにも分かるようにしていただいて、遠くからでも例えば茶道部に入りたいという子がいたら、そこに問い合わせができるようにみんなに情報提供していただけるようお願いします。

教育総務課長

そのほかよろしかったでしょうか。

### ③佐藤一斎學びのひろばについて

教育総務課長

それでは、最後の議題に入りたいと思います。佐藤一斎學びのひろばについて、社会教育課長から説明をお願いします。

社会教育課長

佐藤一斎學びのひろばについて説明。

教育総務課長

この施設の概要等については、毎月の重点目標の進捗状況でも説明しておりますので、大体皆様方の頭の中に入っていると思うのですが、施設を造った後に、より多くの方にここに来てもらわなければいけないと思います。社会教育課長からも話があったように、多くの方に来てもらうためにはどうしたらいいかというようなアイデアも含めて、ご意見、ご質問等をいただけるとありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

西尾委員 恵那市にはスケートリンクがあって、市内の子供たちが全ての学校からスケート教室に来ていると。やはりそういった市内にある施設を子供たちに開放するという、開放というのいろいろな意味がありますが、そのためには子供たちがまずは来て体験をするというのがまず第一。そして、恵那市も参加しております嚶鳴フォーラム、この中心的な自治体である愛知県の東海市、ここに細井平洲の記念館がある。その細井平洲の郷土資料館が、そういう施設があるということをやっぱり広くPRする。例えば、嚶鳴フォーラムでぜひここに来てよと誘致するというのも当然あってしかるべきだし、あと恵那市には中山道広重美術館がある。そういった文化施設をタイアップして、市外の方にもPRする機会を大いにつくることが必要だろうと。だからまずは地元の子供たち、そして市外から誘客するというのも大いに考えなければいけないだろうなと思います。

樋田委員 これの管理は教育委員会でしょうか。

社会教育課長

条例の方で、指定管理で行っていくということにしております。

樋田委員 佐藤一斎さんは有名な人ですがけれども、一生懸命やっている学校は岩邑小中学校で、あとの学校はどちらかというところあまりやっていない、正直な話そう思います。もっと一生懸命やっているのは下田歌子さんの論文や随筆は、恵那市内の各小中学校から応募している。それはなぜかなということだね。下田歌子賞という賞があるからかもしれない。この前の中学校の部では、恵那北中学校の瀬瀬わかさんが最優秀賞を取った。けれど、佐藤一斎について彼女は知っているかどうかは分からない。そうするとこのせつかくいい施設を造ったら、ここに学芸員のような方はたくさんいますか。

社会教育課長

未定ですが、そういう方にも入っていただけるといいかと思います。

樋田委員 要は各小中学校でやろうとすると、総合的な学習の時間ぐらいしか扱えないと思うのです。そうするとそこにいるスタッフが、各学校へ1時間なり2時間なり出張出張講座みたいな形で広めていくと、そこに、そういうのがあるのか、そういう人がいるのかということが分かるので、恵那市全部の学校でやってみると。そして今、西尾委員が言われたように、それならその会場に行ってみようかと、そういうふうにもっていくのも一つの手だと思います。だから私は、物を造ったけれども、それをどう活用するかというと、やはりスタッフがいると思うのですよね。そのスタッフの確保と、今、言ったPRは、その人たちに任せると。そういう方法を考えることもできるのではないかなと思います。

社会教育課長

ありがとうございます。今までほかの施設を見に行かせていただいたときに、施設も素晴らしいというところもあるのですが、やはりそれを説明して下さる方のお話が残るといふか、そういうところはとても大事だと思いますので考えていきます。

樋田委員 今、一生懸命やっている鈴木隆一先生もみえますけれども、その下もつくっていかなければいけないと思います。

村松委員 付け足しの提案のような感じですがけれども、先ほど課長さんが、ふるさと学習の場としてと言われたように、やっぱり地域の小中学生にそういう見学する機会をつくってほしい、そういう時間を取ってほしいということと、あと去年の話なのですが、山本芳翠展が岐阜であったときに、明智の読み聞かせの方々の団体が紙芝居を初めにされたと思うのですが、ああいうふうに地元で小中学生や、もしかしたら園児を対象に読み聞かせをして、ふるさとの良さを語り継いでくださっているような団体があれば、そういう方々に協力してもらって、かみ砕いてもっと身近に感じてもらえるように、読み聞かせや紙芝居などの活動をする場にもしていただきたいというふうに思います。展示コーナーなどがあれば、たまには小中学生用のレイアウトに変えて、小中学生が描いた絵などを展示する参加型のブースが1つあるといいかなと思います。

小栗委員 この施設の入館料は決まっているのですか。

社会教育課長

それも条例の中で上限として500円というところはあるのですが、18歳以下の方は無料でやっています。

小栗委員 例えば、お年寄りの方は学ぶ意識が高いので、老人ホームの方に来ていただくとか、あとは社会見学もそうですし、すばらしい方なので、自己啓発のような形の場に使われてもいいと思います。また、例えば、海外から来たお客様をもてなすような形で、着物を着て佐藤一斎のようになれるよ。というような体験の場があって、その着物を着て、岩村の城下町に出させていただいて、こここここのポイントを回ると一斎の金太郎飴みたいなものを作ったりしてそれがもらえるとか、何かそういうふうで着物を着て歩いていただいて、その人が宣伝となって、あれは何だろうというような形で、ここで着られるよみたいな話になると、ちょっと気になった人が行ったりもするのかなと思うので、何かそういう海外の人向けの楽しめる体験コーナーもあるといいかなと思います。あとは佐藤一斎さんの場所ではあるのですが、地域、岩村だけではなくて山岡とかいろいろ近くの、例えば、三郷だと機織りの機械を持ち込んで、機織りの体験ができたりすると言っていたので、そういう体験コーナーを開いてもいろいろなことが楽しめていいのかなと思います。

樋田委員 質問ですが、上の方に一斎像がありますね。あれは下に下ろすのでしょうか。

社会教育課長

今、歴史資料館がある手前のところですよ。ちょっとそこまでは何も話をしていなかったのですけれども。

樋田委員 あそこに像があるよ。小泉元総理が国会で佐藤一斎の言葉を取り上げたということで、それもつなげるのかな。

社会教育課長

その像のことはまだ決まっていません。

樋田委員 まだ分からないということですね。

社会教育課長

はい。

教育総務課長

そのほかはよろしかったでしょうか。3つの議題が終わりましたので、企画部からはよろしかったですか。せっかくですので、もし何かあればお願いします。

まちづくり企画部長

アスリート応援について、世界に出る選手を輩出できるようになったということは本当にすごいことです。それに合わせてこういった支援を強化していくというものだと思いますけど、応援して、今度その人がすごくいい成績を取ったときのことまでここに盛り込んでいるか。優勝パレードまではいかないかもしれませんが、みんなでご苦労さまでしたというようなところまで考えているかということが少し気になりました。今後、こういう方を輩出していこうと思

うと、育てる土壌が必要でありまして、今の部活動の地域移行についてというところにも関わってくる話か分かりませんが、その中では競技力を高めるためのチャンピオンスポーツと生涯スポーツが楽しめるようなレクリエーションスポーツ、スポーツでも2つに分けている。その辺が少し分かりづらいつつ思ったところもあったのですが、上手に競技力を高められるようにもっていけるといいかなと思いました。一からつくるのであれば、きっとやりやすかったのかもしれないですけど、形が出来つつあるところを少し変えるような形で地域スポーツの方を組み立てるということは非常に大変だと思いました。その中に先ほど習い事でダンスがありましたが、それは習い事なのかスポーツなのかというような、そこの線引きが本当に難しくなってくるのではないかと思います。事前に準備委員会を開くということで、準備を進める中でそういった問題もたくさん出てくるのではないかと思います。

佐藤一斎については、本当に、今、歴史教育といいますか先人教育で学校から子供たちに教えているところかと思えますけれども、やはり全国的に見れば、西郷隆盛や板垣退助、坂本龍馬などビッグネームにはかないませんので、このようなものも資料の中に少しありましたけれども、そういった方々も支持していたのがこの佐藤一斎の言志四録だということで、少し人の力を借りて宣伝する。あるいは、西郷隆盛記念館や坂本龍馬記念館もあるので、そういったところと連携しながら、お互いに先人を紹介し合う。西郷隆盛のように偉いと思っていた人が、それよりも偉い人がいたと思ってもらうと、そんな人がいたのかということで知ってもらえれば、遠くからも来ていただけるのかなと思いました。

教育総務課長

ありがとうございます。それでは、3つの議題を通しまして、市長からコメントをお願いしたいと思います。

市長

大変いろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。

エーナアスリート応援事業につきましては、子供たちの可能性を広げるというよりは、いろいろな関わり方というのがあると思いますので、いただいたご意見を参考にさせていただきまして、広げてまいりたいと思いますし、同じように部活動の地域移行に関しましても、やはり先ほども少し選択肢が増えるというような話もございましたように、子供たちにとって一番良い環境を整えていくというのが何より大切だと思いますので、いただいたご意見を参考にさせていただきながら、これも進めてまいりたいと思います。

それから、「佐藤一斎學びのひろば」につきましても、これも既に十分にご承知のことだと思いますけれども、一つはやはり非常にファンが多い中で、こうしたものを広く世間にアピールしていく、海外のという話もありましたけれど、これは逆に我々地元に住む者にとっては、シビックプライドの醸成といいますか、ある意味すばらしい人がいてくれたのだなということを再認識するいい機

会になると思いますので、やはり広く周知をして、学びの機会を提供していきたいなと思っております。いただいた意見を大切に参考にさせていただきまして、より良いようにしていただきたいと思います。ありがとうございました。

### 3. その他

- ・国民スポーツ大会冬季大会（スピードスケート）の開催について

教育総務課長

ありがとうございました。それでは、最後にその他ということで、皆様方に少し情報共有をしたいと思います。国民スポーツ大会冬季大会の開催について、スポーツ課長から説明いたします。

スポーツ課長

国民スポーツ大会冬季大会（スピードスケート）の開催について説明。

教育総務課長

情報共有でございました。それでは最後に、教育長から一言コメントをいただき、閉じていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

教育長

今日は、総合教育会議を開催していただきまして本当にありがとうございました。市長さんと教育委員会が直接意見交換できる貴重な場でありまして、有意義な会になったと思っています。

また、今までは割と学校教育の課題等が多かったのですが、今回は3つの議題ということで、それぞれ時間が多少短いということではありますが、広く意見交換ができたことは本当にありがたかったなと思っています。今後とも、総合教育会議を適切なタイミングで、議題を幾つか絞っていただいて、開いていただけることをお願いしましてあいさつとお願いとさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

教育総務課長

ありがとうございました。

閉会（午前10時33分）